

“鮮度一番！”

No.156

～女性と男性が支え合う社会をつくる～

CONTENTS

- 1 / ひとことコラム
2 ~ 3 / 運営委員会で話し合われたこと
4 ~ 5 / 発見！ただの魅力～ひろこの突撃レポート～ No.12
6 / さんじょう地名メモ…(6) 編集後記

・・・ひとことコラム・・・

ブータンの鍼灸事情

阿部正剛

昨年、11月に若くてイケメンのブータン国王が、これまた若くて清楚な王妃を連れて来日し、被災地の子供たちを前にして、「皆さん一人一人の心の中に竜がいます。皆さんの経験が、この竜を強く大きくするのは、辛い体験をした子供たちを元気づける名スピーチをしたりして一躍大人気になりました。また、GDP（国内総生産）が日本の20分の1しかないのに、GNH（国民総幸福量）では、国民の97パーセントが「自分は幸福」と感じているということで、チョットしたブームになったブータン王国ですが、ブータンの鍼灸事情について現地で治療を行ってきた鍼灸師のお話を聞いたので紹介します。

テレビ等でご存じのように、ブータンは九州とほぼ同じ面積（約3.8万平方km）でヒマラヤ山系の南側に位置し、人口約70万人の小さな国ですが、7500～100mの標高差があるため絶滅危惧種を含む多くの珍しい動植物が確認されています。その豊富な薬草や動物・鉱物資源を活用した伝統医療が古くから受け継がれ「薬の国」とも呼ばれています。いわゆる発展途上の国ですが、医療費は無料で伝統薬も全国の国立病院でも無料で配布され第一線で活躍しています。病院では日本で一般的に使用されている鍼（はり・毫鍼（ごうしん））は使用されていませんが、瀉血療法（しゃけつ・治療目的で血液を微量抜く）やお灸が行われています。お灸は艾（もぐさ）ではなく、薄雪草（ウスユキソウ・日本でも低山に繁殖）を使っています。

ブータンの伝統医学は、病気を4つに分類し①カルマ（前世の行い）に由来する病気②崇りに由来する病気③患者が自力で治すことのできる病気④生活習慣が原因で起こる病気で、医療従事者が扱える病気は④の病気のみと云っているそうです。私たち日本人の常識から考えると現実離れしている考え方と思われるかもしれませんが、患者の主体性の尊重や、今日の過剰な医療サービスのあり方を改めて考える教訓を含んでいるとも捉えることもできます。

特に話題になったGNH（国民総幸福量）というコンセプトに沿って国の政策が進められており①文化政策②環境保全③健全な経済発展④良い統治、を柱としており、伝統医療政策もまた、①文化保護政策に由来し、（①）独自の文化を社会生活に活かし、（②）自国の資源を有効に活用しながら、（③④）医療費の削減・無料化を実現する。まさに、ブータン伝統医療政策は、国民の健康のみならず幸福な社会政策の実現に貢献しています。私たち日本人はここに伝統医療の可能性を見出すことができそうです。

運営委員会で話し合われたこと

日 時 平成24年3月7日(水)(AM9:30~11:30)

場 所 男女共同参画センター

ほっ、春ですね。みんなの心には、どんな花が咲くのかな～？
次回の運営委員会は、4月4日(水) AM9:30～男女共同参画センターです。

1. 新年会(2/8)を終えて

宇治さんが、勧誘してくれた当日入会の新会員さんも参加して賑やかな新年会となりました。ただ、10年物余市のウイスキーを提供してくれた田辺とも子さんが、風邪でダウンして、しゃべりたかったであろうウイスキーのうんちくは、聞くことが出来ませんでした。残念～！

田辺さんの代わりにウイスキーの説明文を情感たっぷりに読んでくれた川瀬弓子さんより、「来年の新年会へは、秘蔵の紹興酒を届けたい。」との発言がありましたので、忘れずにいたいと思います。(笑)

2. 春のうきうきフェスタについて

3月7日(水)午後7時から下田公民館で開かれるしただ郷うきうきフェスタ実行委員会へは、宇治さんが出席します。

そして当会の「大人の女性のためのしただツアー春編！」は、地域コーディネーター近藤洋子さんに相談にのってもらいながら準備を始めました。一番のネックとなっているバスの経費をいかに抑えるかということについては、今回、いい湯らていのゴッツオ・ラータで2,500円のプレミアムコース(地産特産の食材にこだわり作ったお料理全6品贅沢コース)を食べ、その宣伝広告を兼ねるということで、バスでの送迎をしてもらえることになりそうです。日時は、6月6日(水曜日)午前9時集合予定ですので、どうぞ今から日程の調整をお願い致します。

3. 第17回総会について

当会の総会について話し合いました。

日 時：6月2日(土曜日)午後5時より

会 場：「まるい」

総会後の記念講演には、三条市考古学研究会の方から発掘調査からうかがえる「縄文時代の女性の暮らし」を中心にお話しして頂くことになりました。どうぞこちらへも日程の調整をお願い致します。



4. 映画「エクレール・お菓子放浪記」上映実行委員会について

「支えあう人の心のやさしさ」が大きなテーマとなり、入場料の一部が東日本大震災へ寄付される上記映画の実行委員会が組織されます。名誉会長に國定市長、世話人代表に地域たすけあいネットワークの加藤裕子さんになり、三条市あげて多くの市民で盛り上げていこうという物です。随時情報を入れていきますので、ご協力をお願い致します。

5. 審議会等について

三条市男女共同参画審議会委員は、2年の任期を終えますが、ネットワーク三条からこの審議会の内容を熟知している西方久子さんに引き続き受けてもらいたいと依頼がありましたので、了承しました。

また、安室さんより以下の報告がありました。

第4回三条市介護保険運営協議会報告

安室 久恵

2月15日、第4回三条市介護保険運営協議会が開催され、次期（第5期介護保険事業計画—平成24年度から平成26年度）の計画案について話し合った。最初に1月13日から1月27日までに実施した高齢者福祉計画・第5期介護保険事業計画(案)についてのパブリックコメントに対する市の考えが示された。次にこれまでの計画案を整理した最終案が提示され、質疑応答があり、計画案は了承された。また、介護保険料の見直しについても説明があった。全戸に配布される事業計画の概要版も資料として配布された。介護保険全体の運営に関して疑問をもたれたら私にもお知らせください。今後の会議で参考にします。

6. 燕三条エフェム放送（ラジオは〜と76.8MHz）“ワイワイ女性ひろば”

今年もまた、当会のワイ女（ワイワイ女性ひろばの略）担当の春がめぐってきました。新年度4月からの上半期6ヶ月間、どうぞよろしくお願ひいたします。

早速、4月放送分を3月21日（水）に収録する予定です。

昨年の3月11日に起きた東日本大震災以降時々話題に上がる、女性特有の困りごとや生きにくさ等々に関する事、また

3月18日（日）に新潟市のユニゾンプラザで、「高齢社会の生き方を考える」のテーマで、NPO法人高齢社会をよくする女性の会理事長の樋口恵子さんの講演会があり4名が参加しますので、それらを話題にしたテーマを考えています。

メンバー：安室久恵、野崎ミチコ、米田美智子、田辺とも子

尚、ラジオは〜とは4月から大幅な番組改編をする予定です。ワイ女の放送時間については、決まり次第お知らせします。（田辺）

～ ひろこの突撃レポート ～

したただ郷地域コーディネーター 近藤洋子

「したただの女性パワーの底力を見た！～ふーど工房ゆうこ～」

この連載を始めさせていただきはや一年、あっという間のような、でも毎月どなたを取り上げようかどんな風にかこうか、毎月あくせくしながらパソコンと格闘してきました。とりあえず、この会で一区切り……。と思うとほっとしています。今まで続けられた背景には様々な方々のご協力とご配慮があり、本当に感謝しています。

さて、今、したただ郷で頑張っている女性というと、一言では言えず、様々な分野で、いろんな方が頑張っているらしいです。そんな中で、笹団子でしたから全国に商品売り込もうとしている方がいらっしやいます。その方が「ふーど工房ゆうこ」の五十嵐祐子さんです。

祐子さんとの出会いは今から2年ほど前、直売所の協議会を立ち上げて、毎週土・日・祝日に営業をしようという時に、一般の告知を見られて入られた方が祐子さんでした。申込と共に事務所に来られ、すごい勢いで話し始められるのに、圧倒された記憶があります。とても頭の回転が速い方なんだなあというのが私の第一印象です。その後、会計事務所にいらっしやったこともあり、協議会の副代表兼会計をご担当いただくこととなりました。丁度お時間があるとのことで、毎週末のレジもご担当いただくこととなりました。

そこで、普通の人なら淡々とレジ業務をこなして行って終わりですが、祐子さんは違いました。ご自分で何か加工品を作って売っていきたいと思っていたそうで、それまではキムチを作ろうと考えていたそうです。しかし、直売所のレジをしてみると、来るお客さんが口々に言う言葉、「ごんぼっぱの笹団子はないの？ あれおいしいのよねえ…。」ふと気がつく、毎日のように聞かれたそうです。当時、ごんぼっぱ(オヤマボクチ)をヨモギがわりに入れた笹団子を作る団体はしたただ内に5～6軒あったかと思えます。そのうち直売所で売られる団体は3軒ほどでした。しかしどこも手作りの少量生産、売り場に並ぶ事はあってもあつという間に、物の30分で売り切れる事もありました。

この笹団子の売れ行きに目を付けた祐子さんは、キムチの製造許可をあっさりと取り下げ、すぐに菓子での製造許可を取ったそうです。今まで加工品を作るという事をしていなかった祐子さん、それまでのご職業は実は建設業界で営業所長までされていた方です。そんな祐子さんがいかにして笹団子を作ったのか？まずご自分の努力の他に協力者を見つけ出し、笹団子の作り方を教わります。そしてその教えてくれた方には工場長になってもらいました。笹団子の他にもさつまいものプリンやシフォンケーキなども作られましたが、やはり一番売れ

るのは笹団子だったようです。しかしご自分は後発、まだ固定客もいません。そこで、彼女は道の駅での販売を強化し、お客様との会話や周りの人からのアイデアで、様々な笹団子を作り上げました。

普通のこし餡、つぶし餡の笹団子の他に、「きんぴら」「さつまいも餡」(2色)「あまみそ」まで作りました。

そして1年半が過ぎようとした頃、祐子さんは農水省北陸地域の「6次産業化認定業者」に選ばれました。北陸地域では唯一の女性認定者です。今取り組まれている事は販売先の新規開拓、今では地元以外で東京のネスパス新潟館やJR新潟駅などでも販売されています。先日は東京の商談会にまで行かれたそうです。そこで、東京のデパートやスーパーのバイヤーさんに聞かれる事は「添加物に、何を使っていますか？」という事だそうで、今後は「安心して食べれる笹だんご作りを目指す。」とおっしゃっていました。

そういえば、一昨年、ネスパス新潟館での三条市のイベントにただだから数軒のさつまいも加工品を作るメンバーが出品をされました。祐子さんは妹さんとお二人で笹団子やプリンなどを販売されていました。祐子さんは製造し、妹さんが販売します。この妹さんが普段はピアノの先生をしていらっしゃるのですが、ものすごく、接客上手なのです！！妹さんの素敵な笑顔と親しみやすさが、奏を効して、会場に入ったお客さんの8割ぐらいが祐子さんのブースの前で止まります。それは見事でした。決して押し売りをするのではなく、「この笹団子、私とっても気に入っているんだけど食べてみませんか？」という感じで試食を勧め、販売されていたように記憶しています。

ただの女性パワーはこれからもっと広がりそう…。そんな希望と予感を与えてくれる元気な方たちです。

ふうど工房ゆうこ

〒955-0101
新潟県三条市曲谷 644
TEL.090-4955-1343
FAX.0256-46-4061

<http://www.yukonoyasai.com/>

【販売店舗のご案内】

■ しただうんめえもんフェア

場 所:道の駅漢学の里悟空駐車場
営業日:4月22日～11月25日までの
土・日・祝日
営業時間:朝9時～午後3時30分まで

※商品には限りがございますので、品切れの際はご了承ください。(左記電話番号あて、ご連絡を頂、ご予約いただくことをおすすめいたします)

さんじょう地名メモ (7)

「歌枕考・末の松山（すえのまつやま）」

三条地名研究会 杉野真司

地名を調べる参考資料の一つに『大日本地名辞書』（明治40年）があります。著者は阿賀野市（旧安田町）出身の吉田東伍です。吉田の『大日本地名辞書』は、近代の辞書の中で、大槻文彦の『大言海』、諸橋轍次の『大漢和辞典』と並ぶ偉業です。

この吉田東伍に、「貞観（じょうがん）11年陸奥府城（むつふじょう）の震動洪溢（しんどうこういつ）」という論文があります。3.11東日本大震災以後、この論文に俄かに注目が集まっています。千年前の貞観地震と東日本大震災との類似性が指摘される中、吉田は百年前の1906（明治39）年に、記録に残る貞観地震の様相から、今後おこり得る大地震と大津波への注意を喚起していました。

論文の中で、『百人一首』の「契りきな形見に袖を絞りつつ末の松山波こさじとは」（42番、清原元輔）や『古今和歌集』の陸奥歌、「君をおきてあだし心を我が持たば末の松山波も越えなむ」（1093番）で知られる歌枕の「末の松山」が、貞観地震の津波を詠んだと指摘されています。歌に詠まれた憧憬地名を歌枕（うたまくら）と称します。全国に歌枕はありますが、圧倒的に多いのは東北で、歌枕の宝庫です。松尾芭蕉の『奥の細道』が東北を舞台にする理由の一つも、歌枕を訪ねる旅であったことが背景にあります。

宮城県多賀城市にあったと推定される「末の松山」は、今も高台の地に存在します。一般に、変わらぬ男女の愛情を地名に譬えたと言われていました。歌枕の多くは実在するものではなく、イメージの地名と考えられがちですが、それが、元は、実景（津波）を詠んだものが伝承の過程で歌枕になったと吉田は考えました。歌枕が単なるイメージではなく、先人の警告であったとの指摘には、災害地名の先鞭として瞠目に値します。現存する「末の松山」の松が何代目の子孫になるかはわかりませんが、松が聳える多賀城市の高台の地には、3.11東日本大震災の津波もそこまでは押し寄せなかったそうです。

「末の松山」に関する吉田の指摘は、災害地名の重要性を再認識させる画期的な内容です。地名は防災にも役立つ存在であり、将来に残すべき価値あるものとしての意識が広まることを期待しています。

編集後記：

ついこの間の雪との戦いがうそのような・・・春の声が聞こえてきますね。気持ちのギアを切り替えるにはちょっとやさしい春の声ですが、ゆっくりゆっくり進めそうです。今月も読みごたえのある誌面です。どうぞすみからすみまでお読みください。（原）



編集発行：三条女性会議・代表 野崎ミチコ

連絡先：三条市田島2丁目12-12 Tel 32-3667 FAX 32-3679

ホームページアドレス：<http://www.joseikaigi.net>